

## 平成31年 病害虫防除指導情報 第3号

作物名：にんにく  
病害虫名：さび病

さび病が県内全域に広く発生しています。  
～ ほ場をよく見回り、薬剤防除を徹底しましょう。～

### 1. さび病の発生状況（発生時期 やや早い 発生量 多い）

- (1) 4月中旬の巡回調査において、県内全域で越冬病斑が認められている。  
津軽地域の発生地点率、発病株率、発病度はいずれも平年より高く、県南地域でも発病度は平年並であるが、発病株率、発生地点率は平年より高い状況にある（図1）。
- (2) 越冬前（11月中旬）の巡回調査においても広く発生が認められており、凍雪害による越冬葉の消失があったものの、例年より越冬量が多かったと推察される。
- (3) 向こう1か月の気温、降水量はほぼ平年並の見込みであるが、越冬病斑が多いほ場では早い時期からまん延しやすいと予想される。

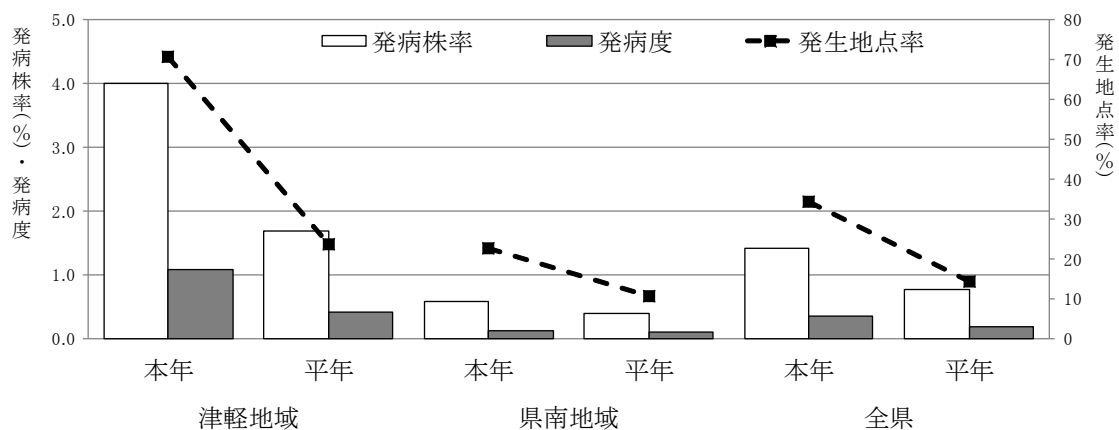


図1 4月中旬の巡回調査におけるさび病の発生状況



写真 4月中旬巡回調査で確認されたさび病斑

## 2. 防除対策

以下の点に留意し、適期防除に努める。

- (1) 越冬病斑が多いほど初発時期は早くなり、初発が早いほど多発する傾向がある。ほ場をよく見回り、新しい病斑が認められた場合には早めに薬剤散布する。
- (2) 本病は気温が5～25℃、結露時間が5時間以上で感染する。今後、連続した降雨などの気象条件が予想される場合は、その前後で薬剤散布する。また、散布にあたっては、下葉までまんべんなく薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (3) 各防除薬剤における効果持続時間（散布間隔）は下表のとおりであるので、これを参考に効率的に防除を実施する。なお、発生が多い場合は、表に示した効果持続期間より散布間隔を短くする。

表1 ニンニクさび病防除薬剤一覧 《平成31年度農作物病虫害防除指針より抜粋》

農薬名	FRACコード	系統名	有効成分種類	本剤の使用回数	成分総使用回数	使用時期	さび病蔓延期における効果の持続期間		
							21日程度	10～14日程度	7～10日程度
アミスター20フロアブル	11	QoI	アゾキシストロビン	3回以内	3回以内	収穫7日前まで	○		
アミスターオブティフロアブル	11	QoI	アゾキシストロビン	3回以内	3回以内	収穫7日前まで	○		
	M05	クロロニリル	TPN		6回以内				
オンリーワンフロアブル	3	DMI	テブコナゾール	3回以内	3回以内	収穫7日前まで	○		
シグナムWDG	11	QoI	ピラクロストロビン	3回以内	3回以内	収穫3日前まで	○		
	7	SDHI	ボスカリド		3回以内				
ラリー乳剤	3	DMI	マイクロブタニル	3回以内	3回以内	収穫3日前まで		○	
ストロビーフロアブル	11	QoI	クレソキシムメチル	3回以内	3回以内	収穫7日前まで		○ (10日程度)	
テーク水和剤	3	DMI	シメコナゾール	3回以内	6回以内（播付前は1回以内、播付後の株元散布は2回以内、散布は3回以内）	収穫7日前まで			○
	M03	ジチオカーバメート	マンゼブ		5回以内				
ダコニール1000※	M05	クロロニリル	TPN	6回以内	6回以内	収穫7日前まで			

※ダコニール1000は発病前に散布する。

★農薬を使用する際には必ず最新の農薬登録情報を確認してください★

また、短期暴露評価の導入により使用方法が変更される農薬は、登録内容の変更前であっても、変更後の使用方法で使用する必要があるため、変更の有無を次のWebサイトで確認してから使用してください。

農林水産省「農薬情報」 [http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n\\_info/](http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/)  
 (独) 農林水産消費安全技術センター「農薬登録情報提供システム」  
[http://www.acis.famic.go.jp/index\\_kensaku.htm](http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)

### 《当情報に関する問い合わせ先》

青森県病虫害防除所 TEL:017-729-1717 FAX:017-729-1900  
 〒030-0113 青森市第二問屋町4-11-6 担当：佐藤（正）主幹